

3月の技術対策（水稻）

平成18年3月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知北部地区農業改良普及センター
雨竜西部地区農業改良普及センター

1 種子消毒

表1 種子消毒剤の使用基準

処理時期	薬剤名	対象病害名					使用濃度 使用方法	使用時期	使用回数
		ばか 苗病	褐条 病	苗立 枯細 菌病	いも ち病	リゾ プス 菌			
種 初 浸 漬	テクリドC70アブル						200倍・24時間	浸種前	1
	モガートC・DF						200倍・24時間	浸種前	1
	エコホープ						200倍・ 24～48時間	浸種前～ 催芽前	-
	エコホープドライ (化学合成農薬成分にカウントされない)						200倍・24時間	催芽時	-

- 1) は登録あり。は道の指導参考になっているもの。
- 2) 消毒液の水温は10以下にしない。
- 3) 対象病害名リゾプス菌は「苗立枯病(リゾプス菌)」を示す。

消毒済種子

消毒済種子は「モガートC・DF」処理をしています。消毒済種子は、浸種後3日間は水の交換をしないでください。また、最初に水の交換をする際は静かに行いましょう。

2 種初りの浸漬と催芽

種初りの発芽を揃えるために適水温と適日数を守ってください。17年産種初りは、品種により一部初水分が低くなっていることが考えられますので、浸漬日数を通常より1～2日延長して下さい。

浸漬中の種初りの酸素不足を防止するために、水の交換は2～3日毎に（エコホープを使用した場合は1～2日毎に）1回行って下さい。

催芽時の温度は一定状態を保ち、催芽状態をこまめに確認して下さい。通常は30～32の温度で20時間程度で「ハト胸～2mm」の状態になります。催芽状態が悪い場合は4～6時間程度の時間延長が必要です。

褐条病対策

浸漬時に「循環式催芽機」を使用しシャワーにより酸素補給をしていると、酸素補給時に褐条病菌(シュートモス菌)の感染を助長するので避けます。催芽は「静置式催芽」又は「蒸気式催芽」で行って下さい。「温湯消毒」や「エコホープ消毒」は褐条病には効果がないので、循環式催芽機による浸漬、催芽は避けて下さい。

表2 種初りの浸漬水温と浸漬日数
(H17年産種子)

浸漬水温	浸漬日数	備考
10	9～10日	
11	8～9	この範囲が適水温と適日数。
12	7～8	

3 育苗箱数の確保

高整粒米・低クパク米生産にとって、適正な栽植密度を確保することは重要なことです。適正な栽植密度を確保するために必要な苗箱を準備してください。

表3 田植機別の栽植密度と必要苗箱数(H8年長谷川)

m ² 当り 株数 (株)	株間 (cm)	成 苗(箱・枠/10a)				中 苗(箱・枠/10a)		
		ポット苗		箱ポット苗	型枠苗	マット苗	型枠苗	箱ポット苗
		490穴	448穴	16回	8回	20回	10回	18回
22	14	44	48	40	37	-	-	-
23	13	48	52	43	39	-	-	-
25	12	52	56	46	43	37	34	37

斜め太字は適正栽植密度を確保するのに必要な箱数を示す。

4 育苗基肥

昨年、苗に軽度の燐酸過剰障害(第1葉の先端が褐色～濃紫色に変色)が発生していた苗床は、育苗化成「S066」を使用することで症状が軽減できます。

表4 育苗様式別の施肥基準例

区分	一般 土 壤		軽度の燐酸・加里過剰土壌			
	中 苗		成 苗	中 苗		
	箱マット 箱ポット	型 枠	ポット	箱マット 箱ポット	型 枠 ポット	
土量(kg/箱・枠)	4.6	2.1	2.0	4.6	2.1	2.0
床 肥 料 銘 柄	育苗10号	-	育苗10号	S066	-	S066
土 施 肥 量(g/箱)	12	-	6	10	-	5
置 肥 料 銘 柄	-	S258	S258	-	S066	S066
床 施 肥 量(g/坪)	-	680	680	-	820	820

- 施肥量：床土は箱(枠)当たり、置床は耕起深10cmで坪(3.3m²)当たりを示す。
- 土壌分析の結果、燐酸・加里の施用が不要の場合、硫安など(窒素成分のみ)を使用する。

5 融雪促進(苗床・本田)・ケイ酸補給(本田)

水田の乾土効果は、水田に水を入れる前にどれだけ乾かしたかにより決まります。乾土効果による土壌窒素は、湛水直後から速やかに出るため、基肥施肥と同様の効果があります。ケイ酸の補給と融雪促進効果を兼ねてケイ酸資材の施用に努めて下さい。融雪効果を高めるためには10a当たり60kg程度散布する必要があります。また、ケイ酸の土壌分析値がある場合は、これに基づき施用して下さい。

苗床の地温が低く、出芽・生育不良が散見されますので、サンアッシュの散布や除雪などを実施し、地温の確保に努めて下さい。

表5 土壌型別のケイ酸資材施用量

土 壤 型	ケイ酸資材施用量(kg/10a)	
	ケイカル・ミネカル	みつかね
グライ土	150～180	100～120
泥炭土	150～180	100～120
灰色低地土	120～150	80～100
灰色台地土	120～150	80～100
褐色低地土	90～120	60～80

散布時期：3月15日～20日

- 週間予報を参考に気温の高い日が続く日に散布して下さい。
- 降雪が20cm以上あった場合は再散布が必要です。